

演出から一言、いつも同じ話しかしてないのでメモ、5

これも、脱兎を追う、の時のコピペ。

昨日はお疲れ様。詰め込み過ぎたのでバタバタしちゃいましたね。すみません。でも一応この時期に流れて作品世界を見られたのは成果でした。もしも問題点を見つけられた役者がいたのなら、それも成果ですね。稽古は問題の発見と解決、そして新たな問題の発見と解決、の繰り返しです。その繰り返しの中で昨日より今日、今日より明日、明日より・・・、って成長や変化が起こって、より良い本番の芝居に辿り着ければ良いと思います。昨日の稽古もこれから、改めて糧にして上へ上へと行きましょう。

登山で言えばまだ麓ですよ。ふ、も、と、ですよ。見上げる頂上はずっと上で、雲で見えないくらいの高みですよ。その辺、どうぞよろしくお願いします。

昨日、うまく切り抜けられた！って思ってる人もいるかも知れませんが、笑、いや切り抜けられてませんからね。油断して足元すくわれないよう気をつけて下さい。ああ、長堀さんあの人のこと言ってるんだ、と思わないで自分のこととして。本番までにまさか昨日と同じだったら恥ずかしいですからね。成長。変化。念頭に置いて下さいね。

演劇の「表現」と言うのは、音楽やダンスなどの他の表現とは違い、あくまで他人を演じるという表現なんです。他人なんです。自分ではない。自己表現ではなく、他人を演じる他己表現なんです。ストレスはたまるし、発散は出来ないし、難しい。難しいと感じること、難しいと気づくこと、すごく大事。自分ではなく他人を演じるということの難しさにぜひ切磋琢磨して下さい。

あと、お客さんが、見た人がどう思ったかがすべてですからね。自分がどう思ったかは度外視ですよ。もう一度言いますよ。見た人がどう思ったかが大事なんですよ。もう一度言いますよ。見た人が、どう思ったか、ですよ。自己満足は危険ですからね。宜しいですね。見た人がどう思ったかの勝負に勝ち続けることが、演劇の世界での戦いの目標なんですよ。演出家も同じく、ですが。爆。

表現者の思いに耳を傾けてもらう為には、先に絶対に見た人の評価があつてのことなんです。それ無くして、私はこんな思いでやってます、なんて言っても何の意味もありませんからね。正直、あるでしょ、客で見た芝居で、私はこんな思いで、に、知らんがな、って思ったことくらい。それが、芝居が面白いだけで、へーそうなんだ、に入れ替わる。興味を持ってもらうのも、発言力を得るのも、全部見た人の感想の上、ですよ。わっ、恐ろしいですね。

長いので中略。

それと、もうついでだから言うけど、舞台上で目立つということは、下手だってことと同義ですからね。お客さんの気持ちになれば分かりますよね。目立つ役者は下手だって。目立たないよう、目立たないよう、作品に埋没して、ただただより良く作品世界を実現しようとしてそれを達成した時に、初めて、良い芝居だったねえ、なんて言われるような世界ですからね、ここ。振り替えて過去自分がちょっと評価されたかも、って場面思い出してみれば、ああそうだ、って気づくはず。

長いので省略。

長堀博士、記